

地球温暖化の証拠

岩石名 貝化石群集 Assemblage of fossil shells

時代 新生代新第三紀中新世

地質区分 弥栄川層

産出地 剣淵町弥栄川、士別市朝日六線



解説 過去の地球温暖化の証拠



士別市朝日六線の貝化石露頭

あることがわかりました。この地域では新生代の地層はほとんどが陸でできた地層が多いのですが、なぜポツンと海の地層があるのでしょうか？

1500 万年前に、北海道だけでなく、世界中の海水準が上がったらしいのです。その原因は過去の「地球温暖化」であると考えられます。その際、西側の古日本の海水が内陸に入り込んできて、剣淵町から士別市朝日にかけて細長い湾ができていました。内陸に海が

剣淵町や士別市朝日では、貝化石を含む地層が断片的に分布しています。これらの地層中の珪藻化石を調べることで、形成時代は約

1500 万年前で

入り込んできたため、リアス式海岸になっていたものと考えられます。実際に剣淵町弥栄川の露頭では、入り江に堆積したと思われる泥岩の中に中生代の岩石である緑色岩や黒色頁岩の大きなブロックが入り込んでいます。中生代の岩石でできていた、切り立った海岸の崖が崩れて、海底の泥岩の上に落ちてきたものでしょう。

当時、下川町から滝上町にかけて存在していた「ウエンシリ地壘」という山地から多量の碎屑物が湾内に流れ込み、新第三紀中新世の海の地層として、朝日町には奥士別層と似峽層が、剣淵町北部には弥栄川層が、士別峠や幌加内町添牛内には築別層が分布しています。これらの地層は、いずれも新第三紀中新世中期（1500 万年前頃）に堆積した海の地層です。これらの地層からは、やや温暖な気候を示す貝化石が発見されています。

調べてみよう

- 朝日町の露頭で、貝化石を探してみよう。